

◆ くわしく学ぶ世界遺産300 世界遺産検定2級公式テキスト

ページ数	和 訳
41	<p>戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中にこそ平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活に関する無知は、人類の歴史を通じて世界中の人々の間に疑惑と不信を引き起こした共通の原因であり、この<b>疑惑と不信のために、世界中の人々の差異があまりにも多くの戦争を引き起こした</b>。先ごろ終結した大規模で恐ろしい戦争は、尊厳、平等、人間の相互的尊敬といった民主主義の原則を否定することによって、またそれぞれの場所で、無知と偏見とに起因する人間と人種は不平等なものであるとする思想によって、起こりえた戦争であった。(…)</p> <p>(ユネスコ憲章前文・部分)</p>
82上	<p>平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－</p>
	<p>『平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－』は聖なる金鶏山と中尊寺の金色堂を含む5つの資産から構成される。それは、平泉が日本北部の行政的中心であり、京都と張り合った頃、すなわち11・12世紀にさかのぼる行政機関の遺構を特徴としている。<b>その外観は、8世紀に日本で広まった仏国土（浄土）の宇宙観を基にしている。</b></p>
82中	<p>日光の社寺</p>
	<p>「日光の社寺」は、2つの神社（東照宮と二荒山神社）とひとつの仏教寺院（輪王寺）内にある、103の宗教建築によるひとまとまりの集合体である。<b>これらは周囲の環境とともに、伝統的な日本の宗教中心地の好例をなしており、人間と自然との関係という神道の考え方に結びついている。</b>東照宮と輪王寺の大猷院の権現造りは、江戸時代の建築表現の頂点である。</p>
82中	<p>富岡製糸場と絹産業遺産群</p>
	<p>この資産は19世紀後半に設立された、歴史的な養蚕と製糸の施設集合体である。<b>生糸の生産における異なる段階に応じた4つの資産</b>によって構成される。器械的・産業的な専門知識がフランスから輸入された巨大な生糸の工場である富岡製糸場、繭の生産を行う養蚕場の田島弥平旧宅、養蚕知識の普及のための教育機関である高山社跡、そして蚕種（卵）を保存するための貯蔵施設である荒船風穴の4つである。</p>
82下	<p>ル・コルビュジエの建築作品：近代建築運動への顕著な貢献</p>
	<p>建築家ル・コルビュジエの作品から選ばれた、17件のトランスバウンダリーかつシリアル・ノミネーションの資産は日本を含む7ヶ国におよんでいる。<b>新しいコンセプトを反映し、それらが一体となって世界中に近代建築運動の理念を広めた</b>という意味においてどれも革新的なものである。東京の国立西洋美術館は、平坦な屋根、正方形の形状、コレクションの増大に応じてらせん状にフロアの拡張ができるらせん状の通路と平面図をもつ、「無限成長美術館」として特筆に値する建築である。</p>
83上	<p>富士山－信仰の対象と芸術の源泉</p>
	<p>マウントフジとして世界的に知られる富士山は、<b>長きに渡り信仰の対象であり、芸術家や詩人を刺激してきた</b>。富士山の雄大な形状と断続的な火山活動が引き起こす畏怖は、山頂の登り降りによる信仰も含んだ、神道と仏教、人間と自然、象徴的な死と再生を結びつける宗教的実践へと変化していった。北斎と広重によって富士山が描かれた19世紀の浮世絵は、ヴァン・ゴッホのような西洋の芸術家に大きな衝撃をもたらした。</p>

83中	白川郷・五箇山の合掌造り集落
	白川郷の荻町と五箇山の相倉・菅沼は、合掌造り住宅が本来の場所のまま保存されている村の、希少な実例である。これらの小さな村々は、富山県と岐阜県を流れる庄川に沿ったエリアで発展した。岩のごつごつとした高い山々に囲まれ、これら3つの村々は豪雪地帯に人里はなれて孤立していた。合掌造りの住宅は、 <b>高度に合理的な構造法を用いた、特徴的な家屋様式</b> によって建てられているが、こうした自然環境に適応して進化したものである。
83中	古都京都の文化財
	古都京都の文化財は、京都周辺にある17の資産から構成される。昔の中国の首都を見本に、794年に平安京として建てられると、19世紀中ごろまで、 <b>京都は皇国の首都として機能しながら、文化的中心としての役割を果たした</b> 。17の構成資産はひとまとまりになって、かつての首都の歴史と文化についての明瞭な理解をもたらすものである。たとえば、室町時代に建てられた慈照寺と天龍寺は、「侘び寂び」と呼ばれるきわめて日本的な美的感覚を反映している。
83下	古都奈良の文化財
	奈良は710年から784年にかけて平城京として日本の首都であった。この期間に国政の枠組みが強化され、奈良は繁栄を享受し、日本文化の源泉として現れている。本遺産の構成資産は、ひとつの考古遺跡、5つの仏教寺院、ひとつの神社、そして関連する文化的景観を含んでいる。ひとまとまりとして、 <b>これらの場所は、8世紀の日本の首都における暮らしと信仰についての、鮮やかでわかりやすいイメージ図をもたらしている</b> 。
84上	法隆寺地域の仏教建造物群
	法隆寺地域の仏教建造物群は、2つの寺院にある48の木造建造物から構成される。その47は聖徳太子の名で知られる厩戸王が始めに建立した法隆寺にあり、ひとつは法起寺にある。寺院内にある7世紀後半あるいは8世紀にさかのぼることのできる11の建造物は、 <b>現存する世界で最も古い木造建築のいくつか</b> となっている。アテネのパルテノンに類似しているそれらの建築の回廊の柱は、ヘレニズムからの影響を伝えている。
84中	紀伊山地の霊場と参詣道
	紀伊山地の深い森の中に置かれた吉野・大峯、熊野三山そして高野山の3つの霊場は、日本における自然崇拜の古来からの伝統に根付いた神道と、仏教との融合を証明するものである。霊場と紀伊山地の森の景観は一体となって、過去1,200年以上にわたり存続し極めてよく記録されてきた霊山の伝統を示している。 <b>宗教建築と豊かな自然が共存していることにより、この資産は日本で初めての文化的景観として登録された</b> 。
84中	姫路城
	将軍時代の初期にさかのぼることのできる、高度に発達した防衛システムと創意工夫に富んだ防御機構を備えた83の建築物を含む姫路城は、17世紀初頭における日本の城郭建築の、現存する優れた実例である。 <b>それは木造建築の傑作であり、機能性と美しさを結びつけるものである</b> 。白漆喰の壁によって統一されたその優美な外観は、この城に白鷺城という名前をもたらしている。
84下	石見銀山遺跡とその文化的景観
	本州の南西に位置し、考古的な鉱業遺跡、住居跡、城塞、「間部」と呼ばれる輸送路、輸出港からなる石見銀山は他に類をみない集合体であり、 <b>銀鉱業に関する優れた土地利用を示している</b> 。朝鮮を経て中国から導入されたアジアの灰吹法の発展を通じて高品質な銀の大量精製が可能になったことで、東洋と西洋の間で価値のあるものの交易ができるようになった。

85上	広島平和記念碑（原爆ドーム）
	当初チェコの建築家ヤン・レツルによって設計された広島平和記念碑（原爆ドーム）は、1945年8月6日に最初の原爆が炸裂した地域で唯一残った建造物である。それは爆破を受けた直後と同じ状態のままで保存されている。人類が生み出した最も破壊的な力の、赤裸々で力強いシンボルであるだけでなく、 <b>核兵器の根絶と世界平和への願い</b> を表現するものである。
85中	厳島神社
	<b>厳島は遠い昔から神道の聖地である</b> 。この地で最初の神社建築は、6世紀に建てられたとみられている。現存する神社は12世紀に、時の最高権力者であった平清盛によって設立された。資産には17の建造物、2つの寝殿造りの神社集合体（メインの神社をなす本社と、摂社客神社）を形作る3つの別の建造物、また付随する建物と弥山の周りの森林地区も同様に含まれる。
85中	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業
	主に日本の南西、九州・山口県に集中する一連の産業遺産は、 <b>西洋から非西洋国家への最初に成功した産業化伝達を象徴するもの</b> である。シリアル・ノミネーションとして登録された、これら23の資産は1850年代から1910年までのたった50年ばかりという短い期間に達成された、急速な産業化における3つの段階を示している。1910年以降、多くの資産は完全に自立した産業複合施設に後になり、その中のいくつかは今も稼働中であるか、稼働している施設の一部となっている。
85下	琉球王国のグスク及び関連遺産群
	5つのグスク、2つの関連するモニュメント、そして2つの文化的景観が500年に及ぶ琉球の歴史（12～17世紀）と文化を象徴する資産の構成要素として含まれている。12世紀以降、按司として知られる豪族たちが姿を現す。彼らは一族のため自身の居住地を城塞へと変更して居住地の防御を拡充しており、 <b>グスクという言葉はこれらの優れた城を形容するために使われた</b> 。
86上	知床
	知床半島は、日本の最北部にある島北海道の南東に位置する。それは海と地上の生態系の相互関係と、また北半球で最も低緯度で形成される <b>季節海水に多大な影響を受けた、莫大な生態系の産出力</b> についての比類なき実例を示している。この相互関係は、早春の植物プランクトンの大増加を含む、知床の海の生態系を支える初期段階の栄養の断続的な生成をもたらしている。
86中	白神山地
	本州北部の日本海に沿って標高100mから1,243mまでに位置する、白神山地の1/3を覆う原生の地区が登録資産である。日本海に沿った内地の豪雪環境を反映し、 <b>白神山地は1万2,000～8,000年前から東アジアで最大のスナの単一種支配林であった</b> 。500種を超える多様な植物相をもつユニークな植物の共同体は、貴重な鳥類の生息地でもある。
86中	小笠原諸島
	ひと続きの資産は、北から南へ約400kmに渡り広がる5つの構成要素からなり、小笠原諸島の3つの島のグループに位置づけられる30以上の島々を含んでいる。その隔離された立地条件のおかげで、島々は、オガサワラオオコウモリや陸生貝類、維管束植物を例とする高い固有性によって明らかな、 <b>海洋島における生態系の現在進行形の進化プロセスの比類なき実例</b> を示している。
86下	屋久島
	屋久島は、山がちな島の中央から延びる原始的・典型的な雨林である。九州の最南端から60km離れている島は、旧北区と東洋の生物相をもつ地域との境界に位置している。2,000m級の山を抱えている屋久島の生態系は、沿岸の植物相から高山の荒地、中央の山頂の冷涼な気候に対応した笹の草原まで、 <b>連続する植物の垂直分布に起因する豊かな生物多様性を誇っている</b> 。

115上	ゴレ島
	<p>ゴレ島はセネガルの沖、ダカールに向かい合うように浮かんでいる。15世紀から19世紀まで、ここは<b>アフリカ沿岸で最大の奴隷貿易の中心地</b>であった。フランス植民地における貿易の撤廃まで、ヨーロッパ諸国の度重なる支配を受けてきたこの島は、12を超える奴隷の家からなる倉庫であった。ゴレ島は現在、アフリカのディアスポラにおける巡礼の目的地であり、西洋とアフリカが触れ合う入り口であり、和解と赦免についての理想を巡っての対立を通じた、文化間の交流と対話のための空間なのである。</p>
115中	トンガリ口国立公園
	<p>トンガリ口国立公園の中心部に位置する山々は、マオリ族にとって文化的・宗教的重要性をもち、この共同体とその環境との霊的なつながりを象徴している。1993年、トンガリ口は、修正されて<b>文化的景観に言及することになった登録基準</b>を満たして世界遺産リストに登録された最初の資産となった。公園には活火山と休火山があり、多様性に富んだ生態系があり、国鳥キーウィだけでなくニュージーランドに固有のオウムであるカカといった鳥類の特に豊かな種類数を誇る。火山が形成する壮大な風景は、トンガリ口（1,986m）、ナウルホエ（2,291m）、ルアペフ（2,787m）という3つの2,000m級の山頂を含んでいる。</p>
115下	パパハナウモクアケア
	<p>パパハナウモクアケアは、小さくて平坦な島々と環礁からなる、広大で周囲から隔離された線上の群島である。ハワイの本島から北西におよそ250kmに位置し、約1,931kmに渡り広がっている。このエリアは、太古からの環境として、また人間と自然とが親族としてつながりをもつという、ハワイ的な観念が具体化した場所として、原住民のハワイ文化にとって空間的・伝統的に深い重要性をもつ。この場所は<b>生命が始まる場所として、また死後に魂が還るところ</b>だと信じられている。群島のなかの2つ、ニホアとマクマナマナにはヨーロッパ人の入植前の定住と利用に関する考古遺跡がある。</p>
155上	ブラハの歴史地区
	<p>11世紀から18世紀の間にヴルタヴァ川沿いに建造された旧市街、城下町、新市街は、中世以来この街にもたらされた大きな建築的・文化的影響を伝える。ブラハ城や聖ヴィート大聖堂、城の前のフラツチャニ広場、左岸にあるヴァルトシュテイン宮殿、ゴシック様式のカレル橋、ロマネスク様式の聖十字架教会の口トゥンダ、スタレー・ムニェスト（旧市街）にあるゴシック最盛期の聖ヤコブ教会といった多くの壮大な建造物は、この中世都市における<b>豊かな建築の歴史とその進化</b>を語っている。</p>
155中	ヴァティカン市国
	<p>キリスト教世界でもっとも聖なる場所のひとつ、ヴァティカン市国は偉大な歴史と、途方もない精神的冒険とを証言するものである。芸術的・建築的傑作の無二のコレクションが、この小さな国の登録範囲内に並ぶ。その中心は、宮殿と庭園に隣接し、前方に二重の列柱と円形の広場をもつサン・ピエトロ大聖堂である。聖ペトロの墓の上に建てられた聖堂は、<b>世界最大の宗教建築</b>であるとともに、フラマンテやラファエロ、ミケランジェロ、ベルニーニ、マデルノといった天才たちの協働の成果である。</p>
155下	メテオラの修道院群
	<p>ほとんど登ることのできないような砂岩の頂きが連なる地域に、11世紀以降、僧たちはこれら「空の柱」の上に定住した。途方もない難儀に関わらず、15世紀に世俗を離れるという理想のあり方が再燃した折に、24のこれらの修道院が建てられた。ここにある16世紀のフレスコ画は、ビザンティン美術後期の発展における重要な段階を印づけるものである。残りのものは広く廃墟となっているが、最大のメタモルフォシス修道院を含む6つの修道院は、今日もなお活動している。<b>これらのほとんどが高い崖に置かれており</b>、現在では岩を切り出した階段によって登ることができる。メテオラの修道院群における僧侶の人口は2015年時点で4つの修道院にいる15名の僧と、2つの修道院にいる41名の修道女を含む、66名となっている。</p>

165上	イスファハーンのイマーム広場
	イマーム広場は、南北と東西に走る主要道が交差するイラン中央部の町イスファハーンを中心にある都市広場である。17世紀初頭にアッバース1世によって造られた広場は、一連の二階建てアーケードによってつながられた巨大建造物によってすべての側面が区切られており、イマームのモスクやシャイフ・ロトフォッラー・モスク、カイセリヤ門や15世紀のティムール朝の宮殿によって知られている。これらは <b>サファヴィー朝時代のペルシアにおける社会的・文化的生活の水準を見事に証言するものである。</b>
165中	エローラーの石窟寺院群
	エローラーは世界で最も大きい石窟の修道院・寺院複合体のひとつである。マハーラーシュトラ州のアウランガーバードがそう遠くないところにあり、2km以上に渡って広がるこれらの34の修道院と寺院は、玄武岩の高い崖の壁の中を横並びに掘られたものである。紀元後600年から1,000年にかけてモニュメントが断絶することなく作り続けられたという一連の流れをもち、エローラーは、古いインドの文明を生き返らせるものである。特異な芸術的創造と技術的達成のみならず、仏教とヒンドゥー教、ジャイナ教に捧げられた聖地があるエローラーの複合体は、 <b>古代インドの特徴であった寛容の精神</b> を描き出すものでもある。
165下	カルタゴの考古遺跡
	カルタゴはチュニス湾に紀元前9世紀につくられた。紀元前6世紀以降は、 <b>地中海の大部分を範囲とする一大貿易拠点</b> に発展し、目覚ましい文明化の家元となった。長きにわたるポエニ戦争の過程で、カルタゴは、ローマに属する土地を占領するものの、紀元前146年、最終的にローマはその敵を破壊した。その際に第2次「ローマ風」カルタゴが最初のカルタゴの町の廃墟の上に作り上げられた。登録資産にはカルタゴ、ローマ、ヴァンダル、原始キリスト教の痕跡が含まれている。カルタゴの登録範囲で広く知られている構成要素は、ピュルサのアクロポリス、港、トベテ、ネクロポリス（墓地）、劇場、円形競技場、聖堂、アントニヌス浴場、そして考古的保護区域である。
191上	メンフィスのピラミッド地帯
	エジプト古王国時代の首都には、岩のお墓や装飾されたマスタバ、寺院やピラミッドを含む、途方もない葬儀用モニュメントがある。このピラミッドとそれを取り巻く周囲の複合体は、建築家イムホテップにより設計され、飾り立てられた廟として <b>世界で最も古い建造物</b> だと一般に考えられている。ピラミッド群は紀元前2650年から紀元前2120年にかけて、その栄光を誇示するために、第3王朝の歴代のファラオの墓地として建設された。ギザにあるクフ王のピラミッドはエジプトのピラミッド中最大のものである。これは世界の七不思議のうち、現存するただひとつのものである。
191中	ティカル国立公園
	並外れた生物多様性と考古的重要性をもつことから、ティカル国立公園は自然遺産と文化遺産の登録基準を両方満たして登録された数少ない世界遺産のひとつである。グアテマラ北部、青々とした植物に囲まれたジャングルの中心に位置するティカルは、先コロンスス期の主要な政治・経済・軍事の中心地であり、 <b>マヤ文明が遺した最も重要な考古的複合体のひとつ</b> である。紀元前6世紀から紀元後10世紀にかけてティカルには人が住んだ。儀式の行われた中央部には寺院や神殿、ピラミッドや傾斜によって囲まれた広場が含まれている。ア・カウウ王の神殿としても知られる神殿1は、マヤ文明の建築的意匠である特徴的なルーフコムと呼ばれる構造物を頂点に載せている。
191下	シーギリヤの古代都市
	父王を殺したシンハラ王国の王カッサパ1世によって築かれた都の廃墟が、180mもの高さのある花崗岩（ジャングルを全方位見下ろす「獅子の岩」）の頂上と、急な斜面の上に広がっている。メインの入り口は岩の北側にある。それは巨大な岩のライオンの形に設計されており、今日ではその脚は残っているが体にあたる上部の箇所は壊れてしまっている。岩の西側の壁は「 <b>シーギリヤ・レディ</b> 」と呼ばれるフレスコ画でほとんど全て覆われていた。18の女性を描いたフレスコ画が今日まで残っており、この都市の芸術が到達した水準を伝える。

211上	アントニ・ガウディの作品群
	<p>バルセロナあるいはその近郊にある、建築家アントニ・ガウディ（1852～1926）が建てた7つの資産は、19世紀後半と20世紀初頭にガウディが果たした建築と建造物における技術発展への創造的な貢献を証言している。これらの建造物は庭園、彫刻、装飾芸術、そして同様に建築のデザインにおいて束縛のない自由さを見せる、相当地に個人的でありながら同時に折衷主義的なスタイルを表している。1984年にグエル公園、グエル邸、カサ・ミラの3つの資産が世界遺産に登録され、2005年には4つが加わった。カサ・ヴィセンス、カサ・パトリヨ、コロニア・グエル聖堂の地下聖堂そしてサグラダ・ファミリア贖罪聖堂のガウディが手がけた地下聖堂と誕生のファサードである。</p>
211中	リスボンのジェロニモス修道院とベレンの塔
	<p>ジェロニモス修道院とベレンの塔は、リスボン港の入り口にあるテージョ川の岸辺に位置している。修道院は王に祈りを捧げるために、また新世界の開拓に臨む船乗りたちの精神的な支えとするために、王マヌエル1世によって建造が命じられ、ヒエロムニス会の僧たちに贈呈された。とても豊かなその装飾は、マヌエル様式芸術に典型的にみられる繁茂・繁栄をよく表すものである。修道院からそう遠くないところある、フランシスコ・デ・アーフダが1514年に建造し、リスボンの守護聖人の名をとったサン・ヴィセンテの塔としても知られるベレンの塔は、ヴァスコ・ダ・ガマの征服を記念するものであり、またリスボン港の防衛拠点としても使われた。</p>
211下	スリュッセルのグラン・プラス
	<p>最も古い記載は12世紀にさかのぼるスリュッセルのグラン・プラスには、地方の有力者や公爵の権勢を象徴する建物や、地方自治体の古い家々などがみられる。グラン・プラスは、繁栄の絶頂期だった1695年にルイ14世の軍勢の恐るべき爆撃を受けそして復興した、ヨーロッパ北部の商業都市スリュッセルの成功をとりたてて証言するものである。3日間で破壊されたこの中世都市の中心では、街の行政長官とギルドによる監督のもと、再建運動が行われた。グラン・プラスの周囲の建物は、ゴシック様式とバロック様式の石造で再建されたものである。</p>
231上	ポツダムとベルリンの宮殿と庭園
	<p>1730年から1916年の間につくられた150の建物と500ヘクタールの公園を持つ、ポツダムの宮殿と庭園群は、選び抜かれた自然環境によってその唯一性が際立つ、芸術的な一帯を形成している。グリーニッケ湖とハーフェル川の岸に宮殿と庭園が並んでおり、ベルリン・ツェーレンドルフ地区まで広がっている。1745年から1747年の間にフリードリヒ2世によって建造されたサンスーシ宮殿は、ドイツ・ロココ様式の傑作例であり、その庭園はフランス庭園の影響を受けている。ポツダム宣言が発表された歴史的舞台であるツェツィーリエンホーフ宮殿は、サンスーシ宮殿の北東にある。</p>
231中	モスタル旧市街の石橋と周辺
	<p>ネレトヴァ川の渓谷に位置するモスタルの旧市街は、15世紀と16世紀にはオスマン帝国の国境の街として、19世紀と20世紀にはオーストリア・ハンガリー帝国の統治下で発展した。モスタルはその古いトルコ風の家と、命名後はスターリ・モストと呼ばれた「古い橋」によって長い間知られている。しかし、1990年代に起きた紛争のため、名高い建築家シナンによって設計された旧市街と「古い橋」の多くが破壊された。「古い橋」は近年に再建され、旧市街の町並みの大部分は、ユネスコによって設立された国際学術委員会のサポートを受け修復あるいは再建が果たされている。</p>
231下	カナイマ国立公園
	<p>カナイマ国立公園はベネズエラの南東部、ガイアナとスラジルの国境沿いに、300万ヘクタールにわたり広がっている。公園のおよそ65%が、約17億年前の先カンブリア時代にさかのぼるテーブルマウンテン（テプイ）地形に覆われている。テプイは、この周辺にしか生息しない小さな蛙オリオフリネアや食虫植物ヘリアンフォラといった生物が形成する、他ではみられない生態系を有している。テプイはまた、地質学的な関心を集めるものでもある。切り立った崖と滝は、途切れない滝としては世界で最も高い、高さ979mのアンヘル滝を含んでおり、壮麗な風景を形成している。</p>
247上	九寨溝：歴史的：景観的重要地区
	<p>四川省の北部で72,000ヘクタールにわたり広がる、ジグザグ状をした九寨溝の渓谷は、岷山山脈で4,800m以上の標高に達するため、多様な森林生態系の系列を含んでいる。そのすばらしい眺めは、細い円錐型カルスト地形の連続が特に際立っている。それは水晶のような透明度をもち、青・緑・紫の奇妙な色をした水溜りや湖、滝による壮麗な風景を生み出している。140種ほどの鳥類や、また同様にジャイアントパンダやキンシコウ、スーチョワンターキンを含む、絶滅が危惧される動物や植物が渓谷に生息している。</p>

247中	テ・ワヒボウナム
	<p>ニュージーランド南西部に位置するこの公園の風景は、連続する氷河作用によってフィヨルドや岩がちな沿岸、そびえ立つ崖、湖や滝に形作られてきた。アルパイン断層が地域を分断し、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの接点であることから、<b>地上に位置する世界の主要なプレート境界の、わずかに3つしかない区域のひとつ</b>となっている。公園の2/3は、樹齢800年を超えるものもあるナンキョクスナとマキで覆われている。世界で唯一の山に棲むオウムであるケアが公園に生息しており、また絶滅が危惧されている希少な大型の飛べない鳥タカヘやニュージーランドの国鳥であるキーウィも同様に生息する。</p>
247下	ンゴロンゴロ自然保護区
	<p>この保護区は高原やサバナ、サバナ林区、森林の広大な範囲にわたって広がっている。伝統的な放牧を行っている半遊牧民族のマサイの牧畜家と共存している野生動物が棲み、<b>世界で最も大きいカルデラである壮観なンゴロンゴロ・クレーター</b>を有す、多様な土地利用ができるエリアとして1959年に設立された。ヌーやシマウマ、ガゼルといった世界的に絶滅の危機に瀕している生物種が生息しているため、この資産は生物多様性保護における地球規模での重要性を有している。広範な考古学研究は、人類の進化を証明する一連の長期の流れも明らかにしている。それは人類の二足歩行に関連する化石化した足跡や、オールドウヴァイ渓谷内における、アウストラロピテクスからホモ・サピエンスに至るまでのヒト属の多様性や進化の流れを含んでいる。</p>
263上	スルツェイ
	<p>アイスランドの南岸から約32km離れた火山島、スルツェイは1963年から1967年にかけて起きた<b>火山活動によって形成された新しい島</b>である。その誕生以来保護されているだけによりいっそう注目に値するものであり、原始的な自然の研究所を有す環境を提示している。1964年に島の研究が始まって以来、科学者たちは海流の流によって運ばれた種子の漂着、カビ類やバクテリア、菌類の登場を観察し、1965年には最初の10年の終わりに10種類までになる最初の維管束植物が続いた。2004年には、維管束植物は75種のコケ類、71種の地衣類、24種の菌類とともに60種が認められた。</p>
263中	ケープ植物区保護地域群
	<p>2004年に世界遺産リストに登録され、その資産は南アフリカの南西端に位置している。<b>固有の、また絶滅の危機に瀕した植物の多様性から世界で「最高のホットスポット」のひとつ</b>とみなされ、生態学的、生物学的そして進化に関わる、現在進行形の重要な過程の類まれな実例を含んでいる。植物とそれに関わる動物相の並外れた集合体は、100万ヘクタール以上のエリアを覆う13の保護区域群によって表される。これらの保護区は、ケープ植物区地域に独自の、美しく特色あふれるフィンボス植生に結びついた傑出した生態学的、生物学的そして進化的な過程を保存している。</p>
263下	グレート・バリア・リーフ
	<p>グレート・バリア・リーフはオーストラリアの北東部の沿岸に位置する、特筆に値する多様さと美しさをもつ場所である。それは、400種類のサンゴ、1,500種類の魚類、4,000種類の軟体動物と240種類の鳥類がいる、<b>世界で最大のサンゴ礁</b>を含んでいる。また、海綿類やイソギンチャク類、マリンワーム類、甲殻類やその他の生物においても見事な多様性がみられる。とりわけ固有種にみられる、この多様性は、グレート・バリア・リーフが並外れて科学的な、かつ本質的な重要性をもち、またジュゴン（「海牛」）やアオウミガメといった希少種を多数含んでいる。</p>